

…とは言っても、全てを生徒の皆さんに、任せっぱなしにするわけではありません。

皆さんのすぐそばには、家族がいます。私たち教職員もいます。皆さんの姿を見守り、アドバイスをし、進路を自分で決められるように、陰になり日向になりながら、支えています。

進路の選択・決定に向けて、自分自身を見つめ、まずは、自分の力で取り組みつつ、保護者や先生と連携していきましょう。

中学生の人生はまだまだ長く、これからも、いろいろなことがあります。中学卒業後の進路の選択・決定は、ゴールのようにも見えますが、新たなスタート地点に立つ、ということでもあるのです。

音楽を届ける・まごころを届ける

14日(土)、本校体育館にて、社会福祉協議会主催による「敬老会」が催され、百名を超える高齢者の方が集まりました。当日の司会は、吹奏楽部の〇〇さん・〇〇さん。穏やかなトーンのアナウンスで、会をスムーズに進行しました。



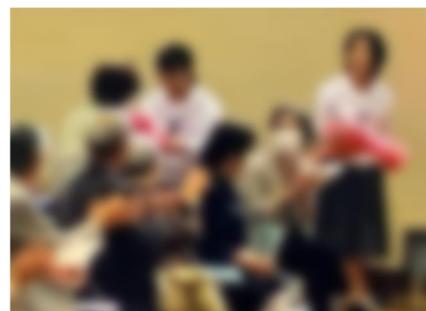
【説明会資料の綴じ込みに、「手伝います!」と駆けつけてくれたのは、卓球部の皆さん。おかげで、あっという間に完成しました!ありがとうございました!】



【はがきを持参された方を席までご案内】



【アルコール消毒、失礼しまーす】



【花束のプレゼンターも務めました】



また、有志合唱団と、吹奏楽部が出演し、日頃の練習の成果を発揮しました。

有志合唱団は初ステージで、やや緊張しているように見えました。しかし、歌うことが大好きな人の集まりなので、すぐに気持ちを盛り上げて、合唱曲「ぜんぶ」をしっとりと、次いで「流浪の民」を高らかに歌い上げたのでした。

吹奏楽部は、おなじみ「マツケンサンバⅡ」で会場を沸かせ、続くディズニーメドレーで、かわいらしく流麗に演奏し、最後には、有志合唱団も参加して、文部省唱歌「ふるさと」を奏でました。会場の皆さんも、曲に合わせて歌を口ずさむなど、しみじみ、ほのぼのとした時間が流れました。



【お帰りの方に、お弁当と記念品を渡すのも、大切な仕事】

この行事に生徒が関わる中で、参加者や主催者の方々からは、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。演奏の素晴らしさもさることながら、「生徒が、温かくて優しい」との言葉が多かったです。帰り際に、私のところに来て「校長先生ですよ?生徒さんが優しく、いい学校ですね」と、感激した様子で話してくださる方もいて、非常に誇らしく、うれしく、温かくなりました。「そうなんです!」と応えたいほどの気持ちになりました。

おそらく生徒は、高齢者をいたわり大切にすることを、当たり前だと思って、気構えることなく行動していたのでしょう。飾り気のない自然な優しさは、まっすぐ相手に伝わるものです。

その優しさ・温かさを受け取っていただけたのなら、これ以上の喜びはありません。これからも、温かい学校でありたいです。